

食味に優れたカボチャ新品種

くりてんか
「栗天下」(試作系統名 SQ-018)の特性と栽培のポイント

雪印種苗株式会社
園芸作物研究グループ
野菜研究チーム
主任 広瀬 慶多



▲ 肉厚で濃橙黄色の果肉、カット販売で映える「栗天下」

1.はじめに

美味しいカボチャを食べていただきたい。弊社はそんな思いから「栗天下」の開発をスタートさせました。食味は強い甘みがあり、食感は追熟期間に応じてきめ細やかなホクホク感からねっとり感まで味わうことができます。味の好みは人それぞれですが、これまでの試作、テスト出荷において共通して食味で高い評価をいただいています。また「栗天下」は糖化がやや遅く、果皮の退色が遅いため貯蔵向けとしても適しています。今回は「栗天下」の特性および栽培のポイントについてご紹介いたします。

2.『栗天下』の特性概要

①草勢および着果性

草勢がやや強い品種です。つる伸びは早く、やや節間が長め、葉は大きく展開します。雌花は8~10節位から着生し、比較的多く着生します。着果は栗系品種の中では安定していますが、大玉種のため果数よりも一果重の重さで収量をかせぐタイプです。果実の成熟までは開花後40~45日程度とやや早めに仕上がります。

②果実の特性

果皮色は濃い黒緑で、ちらし斑や条斑は目立ちません。肩の部分の果肉が特に厚く、果形は特徴的な甲高扁円形に仕上

がります。一果重は2.0~2.5kg程度と10kg箱で4~5玉中心の大果に揃います。見た目よりもずっしりと重く感じられるのが特徴です。

果肉色は濃橙黄色で、貯蔵後は特に鮮やかになります。果肉が厚いため可食部位が多く、果肉色と相まってカット販売での見栄えが特に優れます。

肉質は収穫直後ではホクホクの極粉質です。キュアリング~貯蔵を経て、ややねっとりしてきます。貯蔵後は特に甘みが強くなり食味が極良好です。果皮の退色が遅く、貯蔵性にも優れます。

3.栽培のポイント

①適作型

各地域に適した播種・定植期と予想収穫期は別表の通りです(表1)。草勢がやや強く、露地栽培が適しておりますが、トンネルを利用した促成栽培でも特性を発揮します。糖化がやや遅く、従来品種のような早期出荷には向きませんが、早生の品種と組み合わせて作付けすると出荷期間の延長に貢献できます。

②育苗管理

種子の表面はざらざらで吸水力は強



▲ 「栗天下」の草姿



▲ 着果良好な「栗天下」

など対応してください。

⑧収穫

収穫の目安は開花後40~45日ですが、着果状況や草勢次第で前後します。

従来品種よりやや早めの仕上がりで株枯れが早い傾向があります。収穫遅れによる日焼けには注意してください。果梗部を確認して、全体にコルク化が進んだ完熟果を収穫します。収穫の際は傷つけないように優しく取り扱い、切り口が乾いてから詰込み、収納してください。

⑨キュアリングおよび貯蔵

収穫後は風通しのよい納